

「トビーキッズのたんけん隊 第4回 冬のたんけん」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
36	101	36	30名（6名欠席）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

若狭湾や近隣地域の自然の中で思い切り遊ぶことを通して、自然と親しむ心と体を育む。
 自然の中で様々なチャレンジを通して、意欲を高め、自信を付ける。
 四季を通じた体験を通して、地域の自然の豊かさ、面白さに気づく。

◆期日・期間

平成31年 1月26日（土）～ 1月27日（日） 1泊2日

◆連携機関

後援・・・福井、岐阜、愛知、滋賀、京都 各府県教育委員会
 協力・・・マキノ高原・マキノ高原温泉（マキノ高原観光株式会社）
 滋賀県高島市マキノ町牧野931

◆参加者分析

秋キッズ後の様子について、保護者から以下の内容で子供達の様子を知らせてもらった。

- ・収穫体験が楽しかったようで、帰りの車内でたくさん話をしてくれました。
- ・玄米やお米に興味を持つようになった。
- ・テントを張ったり、かまどでご飯を炊いたり、自分たちで作ったご飯は美味しかったと喜んでいました。
- ・何でも進んでやりたがります。
- ・「たくさん歩いて大変だった」と言っていましたが、野菜の収穫やいろいろな体験ができて良かったと思います。
- ・家族以外もあいさつをがんばってしようという意識が高まっています。
- ・たくさん歩いたことの思い出が強いようで、よく説明してくれます。
- ・今まで自分が一番下で甘えていたので成長しているなと感じました。
- ・自分一人で作れる料理も増えてきて、作って人に喜んでもらえる楽しみを知ったようです。
- ・一人でできること、「やろう、やってみたい、できた」その思いが子供から伝わってきます。
- ・学校の行事にも積極的に取り組めるようになり、自立心が育ってきた様に思います。
- ・お米がおいしい、野菜の食べ方や調理について興味を持ち、手伝ったり一人で作りたがりするようになりました。
- ・「何かお手伝いしない」と自分から聞いてくることが増えました。
- ・同じグループの子とも仲良くなれたようで、とても楽しかったようでした。
- ・体力も、気力も成長してくれているように思います。
- ・スタッフのことをいろいろ話してくれます。
- ・ゲームばかりしていた息子が虫探ししたり、外に出て遊んだりするようになりました。イナゴを初めて見て興奮していました。
- ・お礼などのあいさつがはっきりできるようになった。

第3回秋たんけんでは、学校行事等で欠席者があったが、第4回たんけんも学校行事との重なりや、体調不良、また、送迎途中の積雪のためやむなく欠席者が出てしまった。

インフルエンザの流行時期とも重なり、子供達の体調も気になったが、参加した子供達はどの子も元気だった。

◆日 程

○企画のポイント（日程・特色など）

- ・第4回は冬の季節を味わうということで雪遊びを、また、最終回ということでさよならパーティーを活動の中心として企画している。

○運営のポイント

- ・冬のたんけんについても班編成については変更せず、年間通して同じメンバーで編成した。ボランティアについても、子どもの様子をよく知っている大学生ボランティアについてもらえるよう、同じ班を担当できるようにした。
- ・雪遊びの時間を確保するため、はじまりのつどい終了後すぐにマキノ高原へ出発できるように計画した。
- ・今回は最終回となるため保護者報告会を設定した。内容としては、年間を通した子供達の成長の様子、アンケート結果、ボランティアから見た子供達の様子等を伝えるようにした。

1月26日（土）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	(21:30就寝)
					受付	はじまりのつどい	バス移動	「雪遊びをしよう」 場所…マキノ高原 スキー場 昼食…弁当（予定）			冬のたんけん	入浴・バス移動	夕食（レストラン）	キャンドルのつどい	ふりかえり	就寝準備	就寝
1月27日（日）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							
	起床	朝食（レストラン）のつどい	朝食（レストラン）			（海の学習棟 調理室）	さよならパーティー	たんけんのまとめ	保護者報告会	おわりのつどい	解散						

◆雪遊びにおける安全管理について

- ・事前に2回下見を行い、雪遊びを行う場所の安全確認を行った。
- ・待機場所、ゲレンデと職員やボランティアスタッフが別れて子供達に付くようにし、子供達の単独行動が無いように注意した。
- ・雪投げでの目や耳等へのけががないよう、事前にスタッフと注意喚起について共通理解を行うと同時に、子供達への注意喚起を行った。

3. アンケート結果

(1) 事業について

<参加者>

※雪遊び未記入は途中参加で雪遊びをしていないため。

項目	4	3	2	1	未記入
事業全体をとおしてどうでしたか	76%	21%	3%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	70%	27%	3%	0%	0%
1日目の雪遊びはどうでしたか	87%	0%	0%	3%	10%
2日目のさよならパーティーはどうでしたか	83%	17%	0%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

参加者の声

○楽しかった。また、きかいがあればやりたい。

○みんなとたのしむことができた。

- ゆきあそびやおすしをつくったりしてたのしかった。
- ゆきがっせんがたのしかった。
- たちすべりがおもしろかったです。
- そりすべりがとくにたのしかったです。
- みんなで作ったちらしずし、おみそ汁はとてもおいしかったです。
- じぶんでおみそしるをつくるのがたのしかった。
- つくるのはたいへんだったけどたのしかった。
- ちらしずしやおみそしる、デザートはおいしかったけど、さみしかった。

4. 成果と課題

(1) 子供達の様子に関わって

- 仲間との再会を喜び、それぞれの活動ではなかよく協力し合って活動する様子が見られた。
- そりやスコップなど、雪遊びに使える道具類は準備していたが、子供達はそれらも活用しながら思い思いに雪遊びを楽しんでいた。冬の自然を満喫している様子だった。
- 勝手な行動や危険な行動もなく、安全に活動する様子が見られた。
- さよならパーティーの調理にも、積極的に関わろうとする様子が見られ、誰一人として他のことをして遊んだりすることなく調理に集中していた。
- 班の仲間、参加者全体、職員や大学生ボランティアとも気軽に話をするなど、自分の思いを伝えられている様子が見られた。
- 保護者説明会には、今回参加した子供達の保護者が参加して下さった。スライドで年間を通した子供達の様子や成長、アンケート結果について伝えることができた。保護者の方々は用意したスライド資料を見つつ、しっかりと説明を聞いてくださっていた。

(2) 運営面に関わって

- 今年度は雪不足を心配したが、当日積雪があり雪遊びが予定通りできたことが良かった。入浴も時間にゆとりがありよかった。
- 年間通して参加してくれる大学生ボランティアが多く、子供達の様子をよくわかってもらっていたことで子供達の安心感、信頼感も大きく、安全で楽しい活動につながった。
- ◆雪不足を考慮しマキノ高原以外の場所で雪遊びができないか、他の施設等を開拓していく必要もある。
- ◆実施日の天候について、大寒波による大雪の予報がでており、こうした場合の対応を2重・3重にも考えておかなければならない。
- ◆インフルエンザの流行の時期とも重なった。事業の中でも体調面の管理が大切になる。

5. 活動の様子 写真（数枚）

雪遊び



キャンドルのつどい～ふり返し



さよならパーティ



2日間のまとめ



集合写真



6. 全体を通して

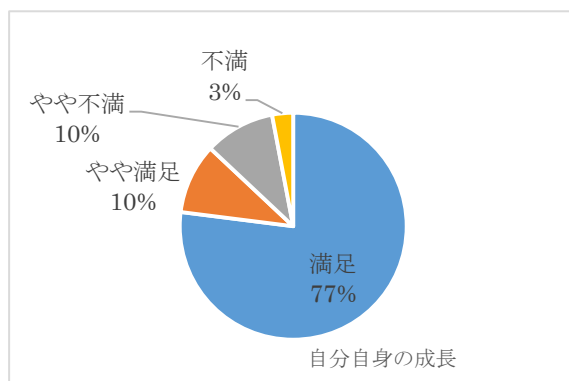
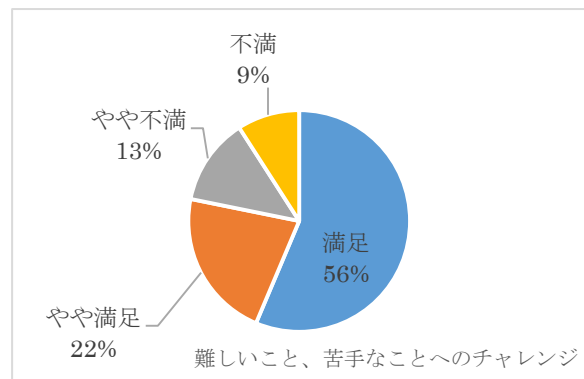
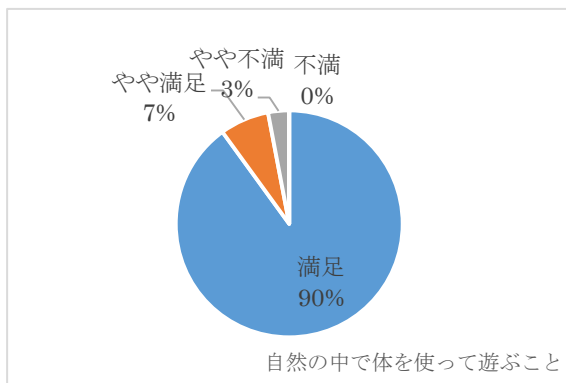
(1) 参加者へのアンケートから

最終回のアンケートでは、子供達自身が自分の成長を感じているかどうかを問う質問項目を加え、回答してもらった。内容は「トビーキッズのたんけん隊」のねらいにも関わる項目としたが、設問内容はもう少し吟味していく必要がある。

その結果は以下の通りである。

自分自身のふり返り

項目	4	3	2	1
①自然の中で体を使って遊ぶことはどうですか	90%	7%	3%	0%
②むずかしいことや苦手なことにもチャレンジするようになりましたか	62%	24%	14%	0%
③トビーキッズに参加して成長したなと思いますか	77%	10%	10%	3%



参加者の声

①について

- とてもたのしい。
- きもちいい。
- よくからだをつかえてたのしかった。

②について

- いろいろまなべました。
- チャレンジするようになった。
- もっとできるようになった。
- あともうちょっとがんばりたい。

③について

- たぶんせいちょうしたとおもう。
- そうだとおもいます。
- おもいません。

自然の中で体を使って遊ぶことについては、多くの参加者が肯定的にとらえている。しかし、難しいことへの挑戦や苦手なことへのチャレンジについては否定的にとらえている参加者もいる。「あともうちょっとがんばりたい」といった思いを持っている参加者もあり、点数は低いものの前向きにとらえている面もうかがえた。自分自身の成長についても、肯定的にとらえている参加者が多い。体験活動を通して自信をつけることで自己肯定感が持てると、さらに何事にも意欲的に挑戦することにもつながると感じる。普段とは違う場面での成功体験や仲間から認められるといった経験は、自己肯定感をさらに増すことにもつながるのではない。

(2) 保護者アンケートから

今回の冬のたんけんが「トビーキッズのたんけん隊」最終回となり、参加者36名の保護者に、冬のたんけん前に送付する参加確認票と合わせて質問紙を送付し、33名からの保護者から返信(回答)をいただいた。

年間4回の「トビーキッズのたんけん隊」を通して、何かお子様に変化を感じられることはありましたか。

上記の質問に「ある」と回答された保護者・・・31人
「ない」と回答された保護者・・・1人
未記入・・・1人

「ある」と回答いただいた方には、それがどのようなことか記述式で回答をお願いしたところ以下の内容で回答があった。

- ・少しずつ自分の意見も言えるようになってきた。
- ・自信をもって自分の意見が言えるようになった。
- ・困った時に質問したりできるようになってきた。
- ・分からないことを聞けたり、コミュニケーションをとることができるようになった。
- ・あいさつへの意識が高まりました。
- ・初めて会う人との交流を通じて、誰とでも話したりできるようになった。
- ・いろいろな人と話すことができるようになった。
- ・苦手意識が和らいだ。
- ・度胸がついてひとまわりもふたまわりも成長した。
- ・負荷がかかることにチャレンジするとき渋ることがなくなった。
- ・最初から「できない」と思わず、「挑戦してみよう」という気持ちが育ってきた様に思います。
- ・自信がついて「やれる！」感がでてきた。
- ・実際にできたことは「できる！」という自信があるよう進んで手が出るようになった。
- ・自分でやってみようと挑戦するようになった。
- ・自立心が芽生えてきた。
- ・自分の準備をすすんでしてくれるようになった。
- ・親と離れて生活することに自信があるようです。
- ・親がいなくても自分で考えて行動できる様になったと感じます。
- ・小さい子に対する思いやりが感じられた。
- ・自分が出来ることは妹に教えてあげたり小さなことですが成長したと感じます。
- ・将来ボランティアの学生さんの様に自主的に活動できるようになって欲しいと思います。
- ・サポートして下さった大学生の方とふれ合い、自分の未来を少し想像できたようです。
- ・したことのないお手伝い等も進んでしてくれるようになった。
- ・率先してお手伝いをしてくれるようになった。
- ・料理に興味をもち、お手伝いしてくれるようになった。
- ・「何かお手伝いしたい」と言ってくれるようになりました。
- ・食事準備のお手伝いをしてくれるようになりました。

家の仕事に積極的に関わるようになったこと、自分のことは自分で出来るようになったこと、粘り強くなったこと、思いを伝えられるようになったことなど、保護者の方の目から見た子供達の変容が感じられた。今年度は、4回のたんけんのつながりを持たせることまた、その都度子供達の様子を保

護者に返すためにも各回が終了する度に通信を発行してきた。

(3) 活動を支援してきた大学生ボランティアの記述から

以下は活動のサポートにあたった大学生ボランティアから見た子供達の成長である。毎回、健康チェックシートに班付きのボランティアが記入してくれている。それによると

- ・寝袋や銀マットも片付けが難しかったようですが、苦戦しながらもしっかり取り組んでいました。
- ・夜のトイレもひとりで行けました。
- ・食器洗いを率先して行ってくれました。
- ・自分でホワイトボードに書かれた連絡を読んで、荷物の準備をすることができていました。
- ・忘れ物はすこしありつつも、一人で準備をがんばっていました。
- ・カレー作りでは火の係になって、ずっと火の前にいて頑張っていました。
- ・はじめは水に顔を付けるのが怖い様子でしたが、だんだんスノーケリングを楽しんでいた。
- ・深いところまでいくとき、「こわい」と言っていたけれど魚を見つけると海に顔を付けて探すのを楽しんでいました。
- ・ハイキングで弱音をはかず、楽しんで歩いていた。
- ・雪合戦やそり滑りなど様々な活動に意欲的に取り組んでみんなと遊んでいました。
- ・1年生では少し難しいことは、自分から引き受けてやっていた。
- ・自分の班だけでなく他の班の子とも仲良くし、友達を増やしていた。
- ・カレー作りでは春よりも上手で一人でどんどん切っていました。
- ・積極的に発表したり、ご飯のときには「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつ係に立候補したりしていました。
- ・テント設営や朝食、夕食作りをするときには必要なものを自分から取りに行ってくれたり、班のために行動したりする様子が見られました。
- ・男の子の子関係なく、仲良く遊んでいました。

子供達の活動を一番身近で支援してきた大学生の目を通して、子供達の成長を感じることができる。

(4) アンケートの回答内容や4回のたんけんを通して子供達の様子から成果と感

自分のことは自分で

年4回の事業を通して、子供達は5泊もの日数、親元を離れて過ごしていることとなる。日常とは違った環境で、非日常的な体験（テントを設営し自分たちの居住空間を作ること、屋外での宿泊、自分たちで調理して食事をとることなど、寝袋の片付けなど）を行う子供達は、大学生ボランティアのサポートを受けつつも、生活に関わることを自分自身で行う状況にある。こうした体験を通して、子供達は「自立した自分」へと成長することができていたのではないかと感じる。

チャレンジする気持ち、あきらめない気持ち

カッター棧橋からのターザンロープを使ったジャンプや飛び込み、スノーケリングで、ちょっと足の届かない海域を通過して観察ポイントへ行くこと、大鳥羽駅からかみなか農楽舎までの普段は歩かないような距離のハイキング、子供達はトビーキッズのたんけん隊を通して、体力的にも負荷のかかることにもチャレンジしてきた。「しんどい」「疲れた」といった声は聞かれたものの、それでも、みんなといっしょに楽しんで取り組む様子、チャレンジすることでの達成感を味わっている様子もたくさん見られた。

自然を楽しむ

夏たんけんの際、キャンプを行った無人浜から沈みゆく太陽を子供達はじっと見つめていた。テントで食事をとっていた子供達も、いつしか外へ出て眺めている。沈みゆく太陽を見ながら、子供達はきっと自然の美しさを感じていたのではないか。そう思えるような瞬間であった。

風の音、鳥の鳴き声、肌で感じる秋の深まり、海の水の感触、雪あそびなど、四季折々の自然に触れ、知らないうちに体で自然を感じていたのではないか。

人とのつながり

初めて出会う仲間と、寝食をともにしてきた。活動を通して、班の仲間に自分の思いを伝えたり、分からないこと困ったことがあればボランティアや職員に尋ねたりするなど、コミュニケーションを通して人とつながる力を養うことができたのではないかな。

7. 総括

トビーキッズのたんけん隊も、年4回(春夏秋冬)の形の事業としては今年度が3回目となった。毎年、100名を超える応募があり、この事業に対する参加者及びその保護者の期待の高さがうかがえる。

内容については若干の変化を持たせつつもこの3年間は同様のプログラムを組んできた。四季折々の自然にふれ、子供達は体全体を使って遊んだ。かみなか農楽舎やマキノ高原など、自然の家以外の場所にも出かけることで近隣地域の自然にもふれ、その場でしかできない体験活動を行ってきた。

同じメンバーで四季折々の自然の中での体験活動を通して子供達には、自然に親しむこと、自立する力、何事にも挑戦してみようとする意欲が養われてきている。また、今年度、ねらいには掲げてはいないが、集団での活動を通して、自分の思いを相手に伝えることなど人とつながる力も身に付けてきているのではないかと考える。これからの社会を生きる子供達にとって、自然体験活動を介して地域社会や人とつながる力を育むことは重要な課題である。大自然の中で遊ぶことを通して心も体も開放する、思いを伝える良い機会ともなる。

来年度に向けての一案として

(1) ねらいを整理

- ①若狭湾や近隣地域の自然の中で思い切り遊ぶことを通して、自然に親しむ心と体を育む。
- ②自然の中で様々なチャレンジを通して、意欲を高め、自信を付ける。
- ③体験活動を通して自分の思いを伝えるなど、つながる力を養う。

(2) 対象の検討

対象年齢については、前年度から対象年齢を1学年下げて、5歳児(年長児)～小学2年生としてはどうかという案も出ていた。第1回の実施時期を考えた時、年中から年長に進級して間もないことに加え、そうした時期に親元を離れて泊を伴った参加となると、参加者側からみてもより不安は大きく迎え入れる所としても幼児を預かる準備(ソフト、ハードの両面に鑑みても)が不足している。そのため1学年下げたの実施は時期尚早と判断し、来年度においては小学1年生～小学3年生としてはどうかと考えている。

ただ、低年齢期の体験活動の意義は大きく、今後、低年齢期での泊を伴う事業の実施に向けて、例えば、他のファミリー対象の事業において、低年齢期の親子が離れて活動するプログラムを取り入れるなどし、親子の不安を少しずつ取り除きつつ低年齢期の事業を企画していく工夫が必要と考える。

(3) プログラムについて

「地域力向上」事業として展開する予定であることから、安全面や職員の体制を踏まえ、より若狭地域の方々に関わっていけるようなプログラム、場の設定も重要視していきたい。併せて、運営面の反省から子供達が思い切り自然を満喫することができるゆとりのあるプログラムも要検討したい。